

# 北海道から地球温暖化対策と危機管理のイノベーションを

あかりみらい代表取締役社長 越智文雄氏



(おち・ふみお)1957年12月札幌生まれ。北大法学部卒業後、北海道電力入社。97年電気事業連合会企画部時代にCOP3に立ち合い、2008年北海道洞爺湖サミット環境総合展事務局長。12年あかりみらい設立。20年一般社団法人次亜塩素酸水溶液普及促進会議(JFK)設立。日本除菌連合会長。札幌なにかができる経済人ネットワーク主宰。64歳

## 豊富な人脈を生かして北海道から政策提案

——今回の特集テーマである「イノベーション」ですが、越智さんは独自のLEDリース事業を通して、北海道から脱カーボンに向けたイノベーションを起こしておられる。

越智 1997年12月、COP3（気候変動枠組条約第3回締約国会議）で京都議定書が採択され、地球温暖化が世界的に取り上げられるようになった。この時、私は北電から電気事業連合会に新設された企画部に向向して、COP3の成立に立ち合いました。いわば

日本における温暖化問題のスタート時点から携わってきたわけです。2008年の北海道洞爺湖サミットでは環境総合展事務局長として出向し、環境問題について世界的見地から勉強させてもらいました。これらの経験が、今の仕事に繋がっていると思います。

さらに北電時代に国内の電力会社の中で初めて社内に設置された危機管理室の課長に就いたことも私の原動力になっています。原子力防災からテロ対策、有珠山噴火の対応策など、さまざまな危機管理の経験を積んできたことが、自

治体へのコンサルティングの基礎にもなっています。

——LEDリース事業の先駆者として脱カーボンの現状をどう見えていますか。

越智 昨年10月21日に岸田総理が閣議決定した政府カーボンニュートラル行動計画では2030年の政府施設の完全LED化が宣言されました。各自治体の担当者も頭を悩ませているのが設置費用と見積り方法なのですが、私たちがいま勧めているリース方式では経費を予算化していなくても、すぐに導入できるメリットがあり、関係者の方々には大変喜んでもらっています。

当社は『ファーストペンギン』として、まっ先にこの業界に飛び込んでさまざまな経験を積んできました。自治体の全ての公共施設の照明をLED化するにあたって、試算ソフトを内製化していることも当社の強みとなっています。このソフトはビジネスモデル特許とあっていて、図面さえあれば経費や削減額、削減カーボン量などの試算が可能で、自治体は予算と効果を容易に知り、検討することが

できます。

——危機管理の蓄積を生かして、コロナ対策の普及啓発にも早くから取り組んでいる。

越智 私は、空環境除菌の技術を持ったメーカー、業界団体が大同団結した「日本除菌連合会」の会長を務めています。これから冬を迎えるに当たり、窓を閉めきって換気が難しくなる時期に次亜塩素酸水を使った空気清浄技術を積極的に採用することが急務だと考えています。エビデンスがあり安全性と効果が証明されている次亜塩素酸水を空気に感染対策に使わないのは、行政の怠慢そのものです。中央では厚労省にも行政の不作為を追及していますが、とりわけ道庁や札幌市の保健担当、危機管理担当者がいまだに及び腰なのは、どこを向いて仕事をしているのかと問いたい。

——越智さんは、片山さつき衆議や故・安倍首相のブレインだった評論家の小川榮太郎さんとも太いパイプがある。

越智 北電時代から『札幌なにかができる経済人ネットワーク』を主宰して地域おこしのための勉強会

を続けており、今年で17年目に入りました。全国・全道の各界から専門家や著名人を講師に招き、延べ175回の勉強会を積み重ねてきたので、幅広い人脈と問題意識を持つことができました。これまでに講師として上田元札幌市長や秋元札幌市長、高橋元知事、経産局長、北大総長のほか長谷川衆議にもYOSAKOIソーラン祭り時代から参加してもらっており、片山先生や小川さんともそういう流れの中でパイプができたものです。

——政府が10月12日に表明した電気料金の激変緩和策は、越智さんのアイデアを小川榮太郎さんが岸田首相に提言した流れで生まれたとか。

越智 安倍さんと小川さんは、直接携帯などで直接やりとりしていた。安倍さんが亡くなってからは、岸田首相をバックアップしたいと、いろいろと提言をしているそうです。その中で、私が以前から考えていた電気料金問題のアイデアや北方四島のロシア基地化の問題などを小川さんにお話ししたところ、岸田首相に伝えていた

いたようです。私の案は12月分単価を超えた分は全て政府が負担するというものでしたが。

——培った人脈を生かした大きな計画もあるそうですね。

越智 地方発信でも届く『日本提言者会議(仮称)』というような組織を立ち上げたい。いろいろな分野の専門家をネットワークし、そこで練った政策を首相や政府に直接伝えるような仕組みを作っていく構想です。そうすることで、日本の将来に貢献したい。

——最後に弊誌へのコメントを。

越智 北方ジャーナルは若い頃から読んでいます。非常に硬派で正論をしっかりと述べており、なくてはならないオピニオン誌だと思います。

私は今、貴誌でカーボンニュートラルや次亜塩素酸水に関する辛口の寄稿を連載させてもらっていますが、多くの人から反響が寄せられており、貴誌の読者の関心が高いことがよく分かります。これからもこの編集姿勢を保ちながら、北海道のオピニオン醸成に寄与してほしいですね。

(10月19日収録・聞き手II藤年泰)